

平成 23 年度 教育 研究 業績 書

氏名 藤原 剛

最終学歴	京都大学農学研究科博士課程単取得満期退学	
取得学位	京都大学農学博士	
所属学会	日本ハンセン病学会、日本糖質学会、Forum: Carbohydrates Coming of Age, International Leprosy Association	
専門分野	糖類の合成化学、免疫化学	
研究課題	合成糖鎖を利用したハンセン病の早期血清診断法の開発 合成糖鎖を利用した抗体の抗原認識機構の解明	
授業科目	学部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境論II (前期・後期)</li> <li>・ 環境論V (後期)</li> <li>・ 環境論V I I (前期・後期)</li> <li>・ 環境論V I I I (前期・後期)</li> <li>・ 人間論V I I I (前期、後期)</li> <li>・ 生命科学 (後期)</li> <li>・ 表現技法I (前期)</li> <li>・ 世界遺産学概論II (後期、分担)</li> </ul>
	大学院修士課程担当科目 (博士前期課程含)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
	大学院博士後期課程担当科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
	通信教育部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境論II</li> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
【研究上の特記事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おうえんポリクリニック等の外部機関からのELISAによる抗PGL-I抗体価の測定依頼や海外の研究者からのNT-P-BSAの供給依頼に積極的に応じた。</li> <li>・ 前年度の延世大学医学部 (韓国ソウル市) のSang-Nea Cho博士との受託研究に引き続き、NT-P-BSAの合成と供給をおこなった。</li> <li>・ Sang-Nea Cho博士と共同で実際の医療現場の厳しい条件下でも使用できる、簡便で迅速な血液診断法の開発のために様々な合成抗原を調整しテストした。これらを用いて調製したML Flow testを用いたハンセン病感染の疫学調査をネパールで行っている。</li> <li>・ 昨年度に引き続きNT-P-BSAの血清学的性状と抗NT-P-BSA単クローン抗体DZ1の立体構造の詳細な解析を行なった。今年度は特に解析ソフトamber10を用いたNT-P部分のコンフォメーションの解析に力を入れた。</li> </ul>	

<p>【教育上の特記事項】</p>	<p>環境論II、人間論VIII：プリント、ビデオ、OHC等を多く取り入れ受講生の関心が持続するように努めた。</p> <p>環境論V：実験のために必要な下準備はできるだけ教員側でしておくことで時間的な余裕を確保し、受講生が落ち着いて実験することができるようにした。希望する学生に対しては、授業時間以外にも実験を行なって学習を深めることができるよう配慮した。</p> <p>環境論VII、環境論VIII：化学の知識や実験の経験が不十分な学生が多いので、詳細な手引きを造った上で繰り返し練習を行い、自信を持って実習に取り組むことができるよう配慮した。</p> <p>生命科学：DNA診断などの最近の生命科学の急速な進歩をできるだけ紹介し、生命倫理にも目を向けられるように配慮した。</p> <p>世界遺産学概論II：スライドを中心にした授業にして、エルサレムの魅力を十分に伝えられるように工夫した。</p> <p>文章表現法：文章表現に関するだけでなく、大学教育に早くなじめるよう実習を中心にした授業を行った。</p>
<p>【社会的活動】</p>	
<p>【学内活動】 (学内職歴を含む)</p>	<p>教養部企画委員、学生支援委員 顧問：男子卓球部、奈良大学付属幼稚園ボランティアサークル</p>

研究業績[著書、学術論文等]				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
①				
②				
③				
④				
⑤				
(学術論文)				
①				
②				
③				
④				
⑤				
(学会発表)				
①ハンセン病の既往歴を有する人々の診療について	共著	2012年1月	第49回埼玉県医学会総会	ハンセン病の在宅医療を行う際に必要になる, 医師と基礎研究者の協力と診療の結果について報告した。
②				
③				
④				
⑤				
(その他)				
①				
②				
③				
④				
⑤				